

## 2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月9日

上場会社名 株式会社 ガーラ

上場取引所 東

コード番号 4777 URL <http://www.gala.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役グループCEO

(氏名) 菊川 暁

問合せ先責任者 (役職名) グループ戦略部 部長

(氏名) ジョーシ ガブリエレ

TEL 03-5778-0321

四半期報告書提出予定日 2019年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	118	52.0	68		77		78	
2019年3月期第1四半期	247	51.7	76		73		72	

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 73百万円 ( %) 2019年3月期第1四半期 80百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	4.74	
2019年3月期第1四半期	4.42	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	879	336	32.5	16.54
2019年3月期	765	195	20.7	9.60

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 285百万円 2019年3月期 158百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、「添付資料」P.3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	17,277,200 株	2019年3月期	16,513,800 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	株	2019年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	16,547,356 株	2019年3月期1Q	16,430,327 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料については、決算発表後に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	9
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）の当第1四半期連結累計期間における経営成績の概況は、連結売上高118,790千円（前年同四半期比52.0%減）となり、大幅な減収となりました。

これは、主にスマートフォンアプリ事業の売上高が前年同四半期と比較して減少したことによります。

また、スマートフォンアプリ事業の売上高の減少に伴い売上原価が減少しております。

販売費及び一般管理費につきましては、前年同四半期と比較してマーケティング活動費用が減少したことから、減収となりました。

これらの結果、営業損失68,246千円（前年同四半期営業損失76,852千円）、経常損失77,993千円（前年同四半期経常損失73,399千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失78,465千円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失72,630千円）となりました。

セグメントごとの経営成績の概況は、次のとおりであります。

## ① 日本

日本セグメントでは、2019年3月に「Arcane（アーケイン）」日本語版のサービス提供が終了したこと、及び、2018年12月からダウンロード配信を行っている「FOX-Flame Of Xenocide-（フォックス）」についても十分な収益貢献ができず前年同期と比較し売上高（内部取引を含む）が減少いたしました。

なお、「FOX-Flame Of Xenocide-（フォックス）」については、Android及びiOS向けのサービス提供を2019年7月に終了し、合同会社DMM GAMESが運営するPCオンラインゲームのプラットフォームであるDMM GAMESにおいて2019年7月よりサービス提供を開始いたしました。

費用面では、「Arcane（アーケイン）」日本語版に係る運営費用の減少があった一方で、株式報酬費用等の増加により販売費及び一般管理費が増加いたしました。

これらの結果、日本セグメントにおける売上高は12,252千円（内部取引を含む）と前年同四半期比で10,269千円（45.6%）の減収となり、セグメント損失が64,734千円（前年同四半期は49,344千円の損失）となりました。

なお、当社は、2019年5月31日に韓国のMegazone Cloud Corporationと業務提携基本契約を締結しクラウド事業に参入いたしました。クラウド事業は、Megazone Cloud Corporationの日本法人であるMEGAZONE株式会社が日本国内で行うアマゾン ウェブ サービス（AWS）事業について、当社グループが営業サポート、運営サポート、人的リソースの確保のための採用及び人事管理サポート、イベントサポート等の業務を行っていくものであります。また、当社は、2019年5月31日に韓国のGPM Co., Ltd.と業務提携契約を締結しVR事業に参入いたしました。VR事業は、GPM Co., Ltd.が行うMonster VRの日本展開に関して、当社が日本における営業代理店としてMonster VRのプラットフォーム事業、販売代理店事業、テーマパーク事業を行っていくものであります。

これらの新規事業により新たな収益基盤を確立すべくクラウド事業、VR事業を進めてまいります。

## ② 韓国

韓国セグメントでは、スマートフォンアプリ事業において、連結子会社Gala Lab Corp.が開発したスマートフォンゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」について、2017年1月の韓国語版のサービス提供開始以来、当社の強みであるグローバルなネットワークを活かした多言語展開による配信を進めておりますが、ユーザーへのアイテム販売減少により前年同期と比較し売上高（内部取引を含む）が減少いたしました。

なお、連結子会社Gala Lab Corp.が開発中のPCオンラインゲーム「Rappelz（ラペルズ）」を題材にしたスマートフォンアプリ「Rappelz Mobile（ラペルズモバイル）」の韓国・中国・台湾でのサービス提供に関し、2019年3月に韓国のゲーム開発・提供会社Entermate Co., Ltd.と、アラビア語でのサービス提供に関し、2019年5月にアラブ首長国連邦のゲーム開発・提供会社Game Power 7とそれぞれライセンス契約を締結し、リリースに向けて準備を進めております。

また、オンラインゲーム事業では、連結子会社Gala Lab Corp.の主力ゲーム「Rappelz（ラペルズ）」及び「Flyff Online（フリフオンライン）」において、ユーザーへのアイテム販売減少により売上高（内部取引を含む）が減少いたしました。

費用面では、「Flyff Legacy（フリフレガシー）」に係るマーケティング活動費用が、前年同四半期と比較して減少しているため、販売費及び一般管理費が減少いたしました。

これらの結果、韓国セグメントの売上高は118,693千円（内部取引を含む）と前年同四半期比で122,668千円（50.8%）の減収となり、セグメント損失が3,614千円（前年同四半期は27,459千円の損失）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて141,476千円増加し、336,803千円となりました。

主な増減は、資産では、現金及び預金が132,960千円、ソフトウェア仮勘定が22,388千円増加した一方で、売掛金が18,697千円減少いたしました。負債では、前受収益が13,608千円減少いたしました。純資産では、資本金が100,005千円、資本剰余金が100,005千円増加した一方で、利益剰余金が78,465千円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が極めて困難であります。さらに、新規事業であるクラウド事業及びVR事業については、当該事業を取り巻く環境の変化等により損益が大きく変動する可能性が高く、適正な業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えさせていただいております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	93,459	226,420
売掛金	58,430	39,732
前渡金	31,638	31,328
前払費用	20,883	12,629
その他	5,995	3,308
貸倒引当金	△149	△136
流動資産合計	210,258	313,283
固定資産		
有形固定資産	3,866	3,484
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	357,302	379,690
その他	2,407	2,015
無形固定資産合計	359,709	381,706
投資その他の資産		
投資有価証券	597	586
敷金及び保証金	15,199	14,788
長期前払費用	172,891	165,512
破産更生債権等	23,062	—
貸倒引当金	△20,303	—
投資その他の資産合計	191,446	180,887
固定資産合計	555,022	566,078
資産合計	765,281	879,362
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,759	1,034
未払金	50,015	48,568
未払費用	56,585	50,179
前受金	37,370	35,697
前受収益	27,792	14,183
未払法人税等	1,240	310
その他	4,174	2,692
流動負債合計	179,937	152,666
固定負債		
長期前受収益	223,148	221,400
繰延税金負債	105	102
退職給付に係る負債	166,763	168,389
固定負債合計	390,017	389,892
負債合計	569,954	542,559

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,230,542	3,330,547
資本剰余金	1,876,146	1,976,152
利益剰余金	△4,457,866	△4,536,331
株主資本合計	648,822	770,368
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	239	232
為替換算調整勘定	△490,512	△484,760
その他の包括利益累計額合計	△490,273	△484,527
新株予約権	35,393	50,111
非支配株主持分	1,383	850
純資産合計	195,327	336,803
負債純資産合計	765,281	879,362

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	247,300	118,790
売上原価	71,630	38,796
売上総利益	175,669	79,994
販売費及び一般管理費	252,521	148,240
営業損失(△)	△76,852	△68,246
営業外収益		
受取利息	1,439	153
為替差益	2,768	—
その他	89	6
営業外収益合計	4,297	160
営業外費用		
支払利息	844	—
為替差損	—	9,857
その他	—	49
営業外費用合計	844	9,907
経常損失(△)	△73,399	△77,993
税金等調整前四半期純損失(△)	△73,399	△77,993
法人税、住民税及び事業税	998	952
法人税等合計	998	952
四半期純損失(△)	△74,397	△78,946
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,767	△480
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△72,630	△78,465



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△74,397	△78,946
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	98	△7
為替換算調整勘定	△5,738	5,700
その他の包括利益合計	△5,639	5,693
四半期包括利益	△80,037	△73,252
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△78,042	△72,719
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,995	△532

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）は、前連結会計年度において営業損失250,834千円及び親会社株主に帰属する当期純損失283,027千円を計上しております。また、当第1四半期連結累計期間において売上高が前年同四半期に比べて52.0%減少し、118,790千円となり、営業損失68,246千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失78,465千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早期に解消又は改善すべく、以下の対応策を実施してまいります。

まず、スマートフォンアプリ事業においてライセンスを獲得したゲームアプリ「Arcane（アーケイン）」及び、「FOX-Flame Of Xenocide-（フォックス）」並びに、自社グループ開発のゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」のサービスを提供しております。また、自社グループ開発のPCオンラインゲーム「Rappelz（ラペルズ）」を題材としたゲームアプリ及び、他社RPGゲーム「Immortal Warrior（日本リリース名：エターナルヒーロー）」のMMORPG版の早期開発を目指します。これらにより、提供するゲームアプリを増やし、スマートフォンアプリ事業の収益化に向けて注力してまいります。

さらに、新規事業であるクラウド事業及びVR事業の事業展開により、ゲーム事業以外の収益源を確保するとともに安定的な収益基盤を確立してまいります。

資金繰りにつきましては、当第1四半期連結累計期間に第三者割当による株式及び新株予約権を発行し、当面の事業資金として203,205千円を調達いたしました。

以上の施策を実施するとともに、今後も引続き有効と考えられる施策については、積極的に実施してまいります。

しかしながら、これらの改善策を実施してもなお、今後の売上高及び利益の回復は、スマートフォン向けアプリの開発の進捗状況、市場投入の時期、市場での競争激化による環境の変化等に左右されることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当社グループの四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年6月27日付で、Megazone Cloud Corporationから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金が100,005千円、資本準備金が100,005千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が3,330,547千円、資本準備金が1,470,116千円となっております。

## (セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	韓国	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	17,091	230,208	247,300	—	247,300
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,430	11,153	16,583	△16,583	—
計	22,522	241,362	263,884	△16,583	247,300
セグメント損失(△)	△49,344	△27,459	△76,804	△48	△76,852

(注) 1. セグメント損失の調整額△48千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	韓国	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	8,493	110,297	118,790	—	118,790
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	3,759	8,396	12,155	△12,155	—
計	12,252	118,693	130,946	△12,155	118,790
セグメント損失(△)	△64,734	△3,614	△68,349	103	△68,246

(注) 1. セグメント損失の調整額103千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 3. その他

## 継続企業の前提に関する重要事象等

当社及び連結子会社(以下、「当社グループ」という。)は、前連結会計年度において営業損失250,834千円及び親会社株主に帰属する当期純損失283,027千円を計上しております。また、当第1四半期連結累計期間において売上高が前年同四半期に比べて52.0%減少し、118,790千円となり、営業損失68,246千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失78,465千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を早期に解消又は改善すべく対応策に取り組んでおりますが、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。なお、継続企業の前提に関する事項及びその対応策に関しましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。